

健診項目		検査でわかることなど	
診察等	問診	自覚症状・既往歴・服薬治療中の病気の有無・喫煙の有無など検査に関係する情報を収集し健診の参考にします。	
	計測	身長・体重	体重が昨年と比べて変化したかに注目しましょう。急な増減は要注意です。
		BMI	BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)という式で計算される値で体格を判定する目安にします。
		腹囲	おへその高さで測る腹囲はメタボリックシンドロームの基準の第一条件とされています。基準を上回った場合は内臓脂肪の蓄積が予想され高血圧、脂質異常、糖尿病などの動脈硬化を進行させるリスクを高めるとされています。
		視力	5m先のが、どれだけ見えるかを測定します。
		聴力	難聴の有無や程度がわかります。
最高血圧 最低血圧	最高血圧、最低血圧のどちらが高くても高血圧といえます。いつも血圧の高い状態が続くと脳や心臓などの血管が傷み、硬くなってきます。(動脈硬化)		
脂質	総コレステロール(TCH)	総コレステロールはホルモンや細胞膜の材料になります。脂質検査の指標の1つです。	
	中性脂肪(TG)	食事から取った余分なエネルギーは、皮下などに中性脂肪のかたちで貯えられますが、血液中の中性脂肪の値が高いときは、動脈硬化の進行に関係します。	
	HDLコレステロール(HDL-C)	HDL(高比重リポ蛋白)は、悪玉のLDLコレステロールを血管壁から肝臓に運んで分解させます。値が低いときは、動脈硬化の進行に関係します。	
	LDLコレステロール(LDL-C)	LDLコレステロールが多くなると、狭心症、心筋梗塞などの心臓病や脳梗塞の原因となります。値が高いときは、動脈硬化の進行に関係します。	
肝機能	GOT(AST)	肝・心臓、骨格筋に多く含まれる酵素。値が高いときは、これらに関係する病気が疑われます。	
	GPT(ALT)	値が高いときは、肝炎や肝硬変などの肝疾患が疑われます。	
	γ-GTP(γ-GT)	値が高いときは、アルコールによる肝障害、肝臓や胆道の病気が疑われます。	
	アルカリフォスターゼ(ALP)	肝臓、小腸、胎盤、骨などに多く含まれ、これらに異常が生じると、数値が高くなります。	
代謝系	空腹時血糖	血液中のブドウ糖の量を調べます。食事をした後は値が高くなるので、10時間以上の空腹時に採取します。値が高いときは、糖尿病が疑われます。	
	ヘモグロビンA1c(HbA1c)	検査前1~2ヶ月の血糖の平均を反映する検査です。検査直前の食事に影響されないで、糖尿病を見つけるのに役立ちます。	
	尿糖	尿中にブドウ糖が排泄されているかどうか調べます。(+)以上のときは、糖尿病、腎性糖尿などが疑われるので、血糖検査で病気の有無を調べる必要があります。	
	尿酸(UA)	プリン体が分解された老廃物で、高くなると痛風、尿路結石の原因になります。	
血液一般	ヘマトクリット(Ht)	赤血球容積率のことで、血液中に占める赤血球の容積を%で表したものです。値が低いときは、貧血が疑われます。	
	血色素量(Hb)	血色素(ヘモグロビン)は肺で取り入れた酸素を体内の組織に運ぶ働きをしています。値が低いときは、貧血が疑われます。	
	赤血球数(RBC)	肺で取り入れた酸素を全身に運び、不要となった二酸化炭素を回収して肺に送る役目があります。高値は多血症、低値は貧血の疑いがあります。	
	白血球数(WBC)	体に侵入してきた細菌・ウイルス・異物・有害物等をとらえ、退治する働きがあります。高値は感染症の疑い、非常に高値・低値は血液の病気の疑いがあります。	
尿・腎機能	尿蛋白	尿中に蛋白が出てきたもので、数回検査しても陽性の場合、腎炎やネフローゼなどの腎臓疾患が疑われます。	
	尿潜血	尿中に混じる微量の血液の有無を調べます。腎炎・尿道炎・尿路結石などで陽性になることがあります。	
	血清クレアチニン(CRTN)	腎機能の状態を調べます。高値は腎機能障害の疑いがあります。	
その他	胸部X線	肺の病気の有無・心臓の大きさ・大血管の大きさを調べます。	
	心電図	異常があるときは不整脈などの循環器(心臓)疾患が疑われます。	
	胃部X線・内視鏡	食道・胃・十二指腸の異常がないかを調べます。	
	便潜血反応検査	便中の血液の有無を調べます。陽性の場合消化管出血などが疑われます。	
	腹部超音波	肝臓・胆のう・腎臓などの異常がないかを調べます。	
	眼底検査	眼科疾患の他に、動脈硬化、高血圧、糖尿病による血管変化の情報を得ることができます。	